

Market Watching

発表日: 2019年7月22日(月)

ECBも利下げを示唆するのか(マーケットウィークリー)

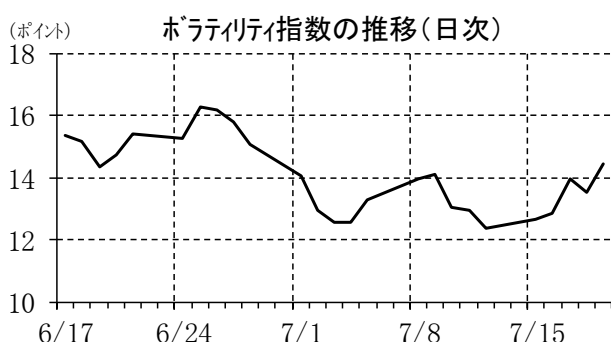
～ブレグジットにも再び注目～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
取締役・首席エコノミスト 嶋峰 義清 (TEL: 03-5221-4521)

【先週の市場動向】

先週の経済指標・金融政策

発表日	経済指標・会合	結果	コンセンサス	前回	備考
7月15日(月)	中国: 実質GDP (4-6月)	+6.2%	+6.2%	+6.4%	前年比
	中国: 鉱工業生産 (6月)	+6.3%	+5.3%	+5.0%	前年比
	中国: 小売売上高 (6月)	+9.8%	+8.5%	+8.6%	前年比
	中国: 固定資産投資 (6月)	+5.8%	+5.6%	+5.6%	年初来前年比
	米国: NY連銀製造業景気指数 (7月)	+4.3	+2.0	▲9.0	ポイント
7月16日(火)	米国: 小売売上高 (6月) ・全体	+0.4%	+0.2%	+0.5%	前月比
	・除自動車	+0.4%	+0.3%	+0.5%	前月比
	米国: 鉱工業生産指数 (6月)	0.0%	+0.2%	+0.4%	前月比
7月17日(水)	米国: 住宅着工件数 (6月)	125.3	126.0	126.9	万件
7月18日(木)	日本: 貿易統計 (6月) ・輸出	▲6.7%	▲5.4%	▲7.8%	前年比
	・輸入	▲5.2%	▲0.2%	▲1.5%	前年比
	・貿易収支	+5,895	+4,060	▲9,683	億円
	インドネシア: 金融政策決定会合	5.75%	5.75%	6.00%	7日物リバースレポ金利
	米国: フィラデルフィア連銀製造業景況感指数 (7月)	+21.8	+5.0	+0.3	ポイント
7月19日(金)	南ア: 金融政策委員会	6.50%	6.50%	6.75%	平均レポレート
	日本: 全国消費者物価指数 (6月) ・総合	+0.7%	+0.7%	+0.7%	前年比
	・除生鮮食品	+0.6%	+0.6%	+0.8%	前年比
7月20日(土)	—				
7月21日(日)	—				



主要市場の動向

	直近値	変化			移動平均値		
		1週間前比	1月前比	1年前比	25日	75日	200日
10年債利回り							
米国	2.055	▲6.7	+8.3	▲77.2	1.803	2.059	2.408
日本	-0.135	▲1.5	+0.5	▲17.0	-0.145	-0.092	-0.019
ドイツ	-0.324	▲11.4	▲3.6	▲65.4	-0.312	-0.156	0.081
豪州	1.353	▲8.5	+1.4	▲130.4	1.338	1.573	2.039
株価							
NYダウ	27154.20	▲0.7	+2.5	+8.3	26841	26270	25452
日経平均	21466.99	▲1.0	+0.6	▲5.7	21443	21502	21355
ユーロSTOXX50	3480.18	▲0.5	+0.7	+0.2	3485	3436	3279
上海総合	2924.20	▲0.2	+0.2	+5.5	2960	2990	2816
為替相場							
ドル/円	107.74	▲0.1	▲0.3	▲4.2	107.99	109.50	110.65
ユーロ/円	120.87	▲0.6	▲0.4	▲7.7	121.78	123.05	125.23
豪ドル/円	75.85	+0.1	+2.0	▲8.4	75.34	76.60	78.47
ユーロ/ドル	1.1222	▲0.4	▲0.0	▲3.6	1.128	1.124	1.132
商品市況							
WTI	55.63	▲7.6	+3.5	▲19.9	57.42	59.41	57.13
金	1426.7	+1.0	+6.1	+16.6	1402	1330	1294

(注) 10年債利回りの変化は金利差 (bp)。その他は変化率 (%)

為替相場の変化は、ドル/円、ユーロ/円、豪ドル/円は+が円安、▲が円高。

ユーロ/ドルは+がユーロ高、▲がユーロ安。

先週 (7/15~7/19) の金融市場は、株式市場では足元の業績発表内容が芳しくないものが目立ったこともあって軟調に推移した。ただし、米国や中国で発表された月次経済指標は良好な結果となったものが目立ったこともあり、景気の先行きに対する悲観的な見方は薄れている。為替相場は、株安金利低下の流れとなったことで、ドル安円高がやや進んだ。

今週のマーケットは、経済指標面では週末に米GDPが発表される程度で、注目度の高いものは少ない。イベント面ではECB理事会が開催されるほか、英国では保守党の新党首が決まるなど、欧州に材料が目立つ。ECB理事会では、ドラギ総裁が追加緩和の可能性を示唆したことで、秋頃までの利下げや資産購入の再開を予想する向きが増えている。今回の理事会での政策変更は見送られるとの予想が大半だが、次回 (9月) 追加緩和が示唆される可能性は否定できない。一方、英国では選出された新党首が首相に就任する見込みとなるため、その言動はEU離脱の時期などを巡る判断材料となる。強硬派と目されるボリスジョンソン候補が新党首に選出される場合、選出前から離脱に関するトーンが変化するかどうかも注目される。

【今週のマーケット環境】

今週の経済指標・金融政策

発表日	経済指標・会合	注目度	コンセンサス	前回	備考
7月22日(月)	—				
7月23日(火)	米国：中古住宅販売件数(6月)	★	536	534	万件
7月24日(水)	ユーロ：PMI製造業景気指数(7月)	★★	47.8	47.6	ポイント
	米国：新築住宅販売件数(6月)	★	67.0	62.6	万件
7月25日(木)	ドイツ：ifo景気動向指数(7月)	★	97.6	97.4	ポイント
	トルコ：金融政策委員会	★	22.00%	24.00%	1週間物レボ金利
	ユーロ：ECB理事会・ECB主要政策金利	★★★	0.00%	0.00%	
	・ECB預金ファシリティ金利	★★★	▲0.40%	▲0.40%	
	・ドラギ総裁記者会見	★★★			
7月26日(金)	米国：製造業受注(6月)・耐久財	★	+0.9%	▲1.3%	前月比
	・非国防資本財(除航空機)	★	+0.2%	+0.5%	前月比
7月26日(金)	日本：都区部消費者物価指数(7月)・総合		+1.0%	+1.1%	前年比
	・除生鮮食品	★	+0.8%	+0.9%	前年比
7月26日(金)	米国：実質GDP速報値(4-6月期)	★★★	+1.7%	+3.1%	前期比年率
7月27日(土)	—				
7月28日(日)	—				

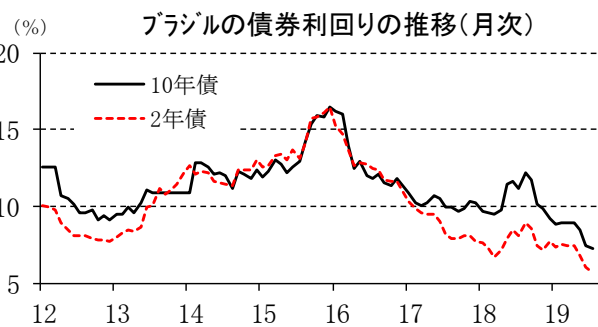
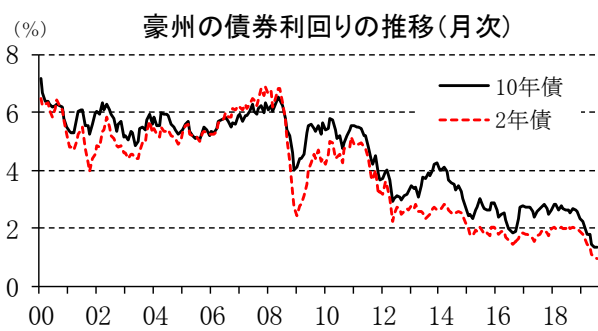
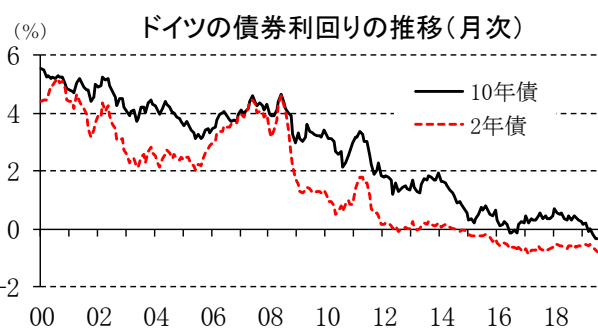
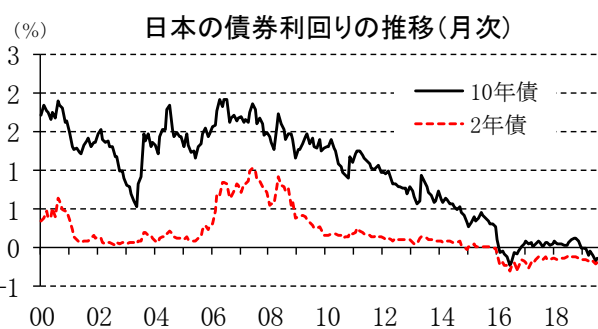
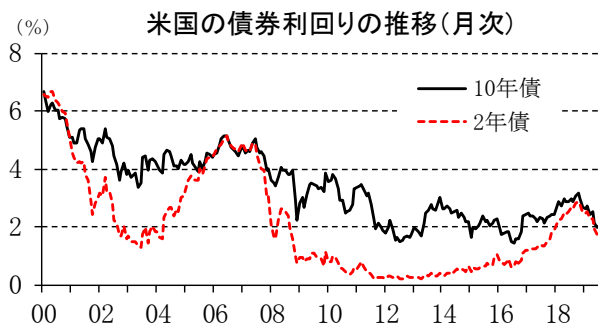
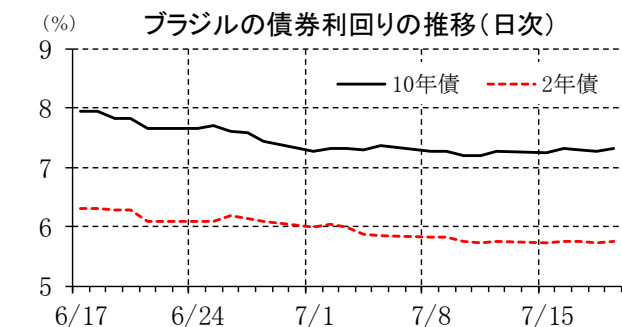
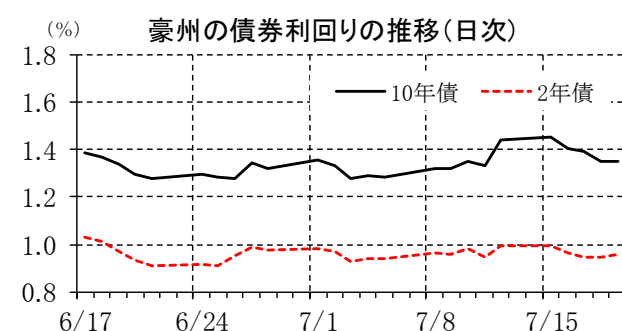
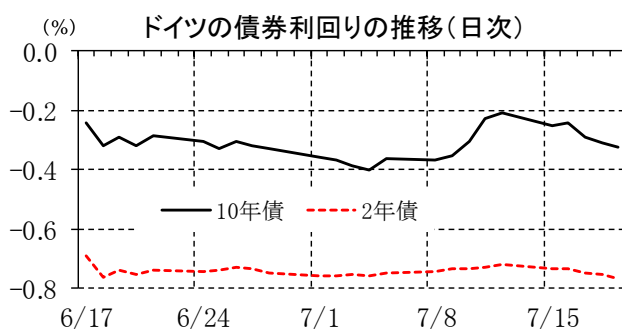
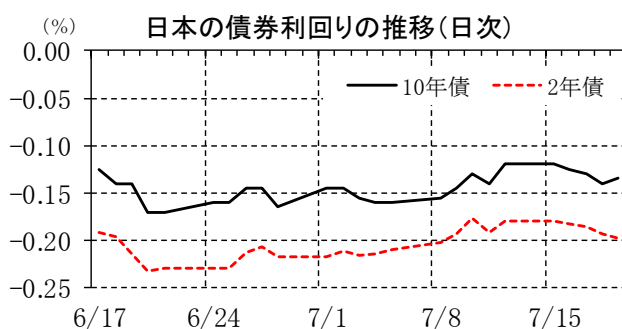
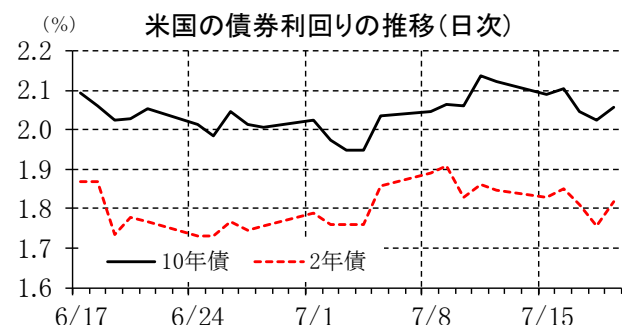
(注) 市場コンセンサスは各種ベンダー調査に基づく。注目度は筆者。

その他の注目イベント・材料

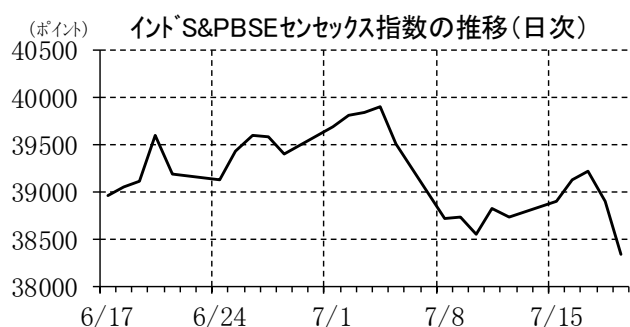
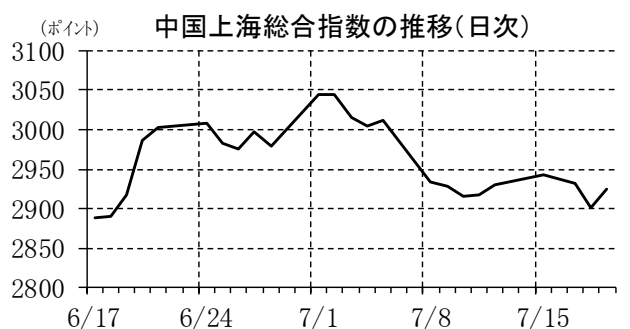
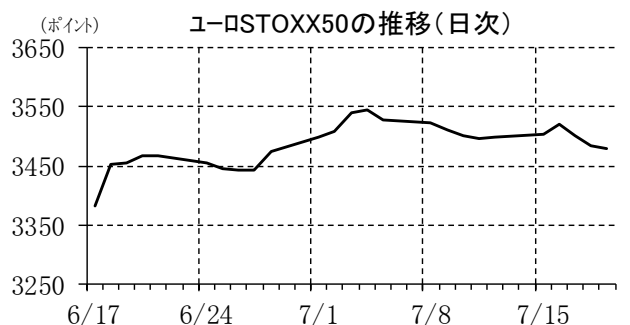
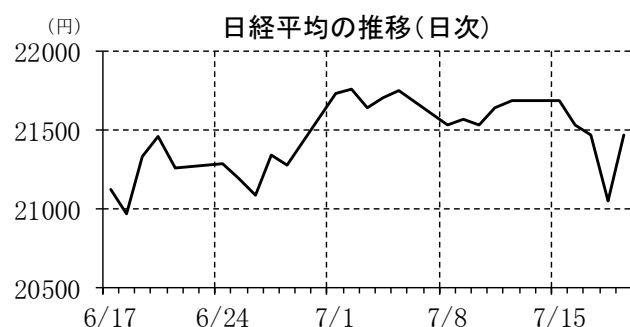
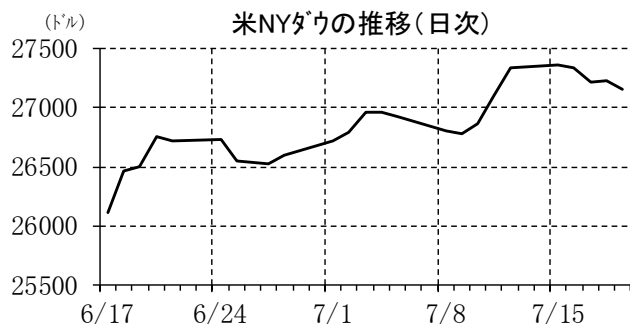
発表日	イベント	注目度	備考
7月22日(月)	—		
7月23日(火)	日本：月例経済報告		
	英国：保守党党首選結果発表	★★★	
	IMF世界経済見通し	★	
7月24日(水)	英国：メイ首相退陣、新首相就任	★★	
7月25日(木)	豪州：トウ豪中銀総裁講演	★	
7月26日(金)	—		
7月27日(土)	—		
7月28日(日)	—		

(注) 各種報道等による。注目度は筆者。

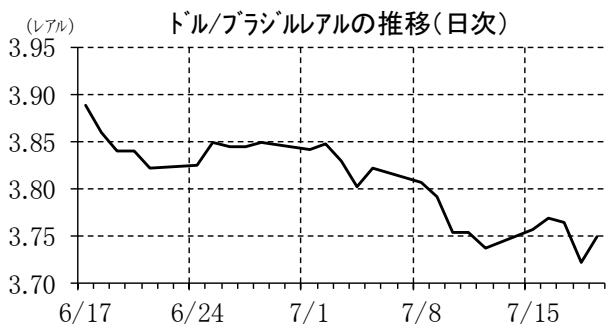
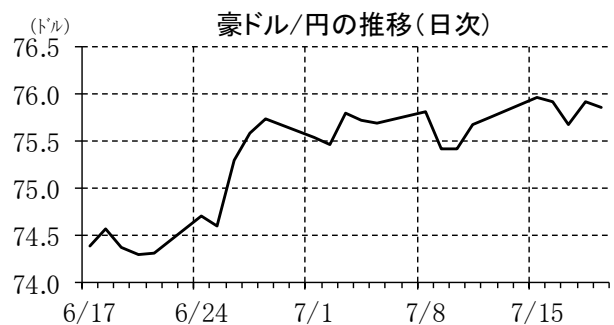
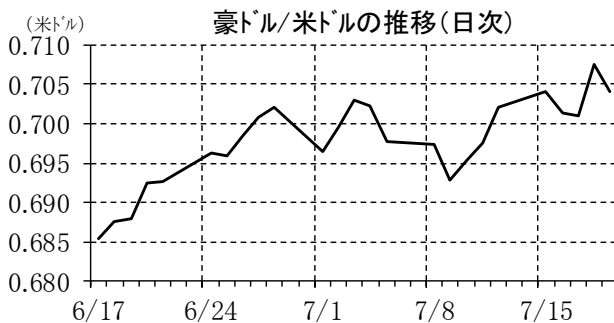
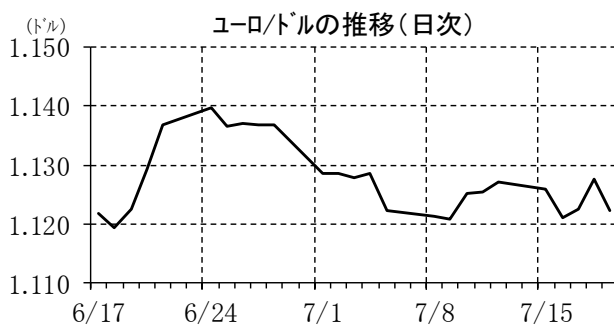
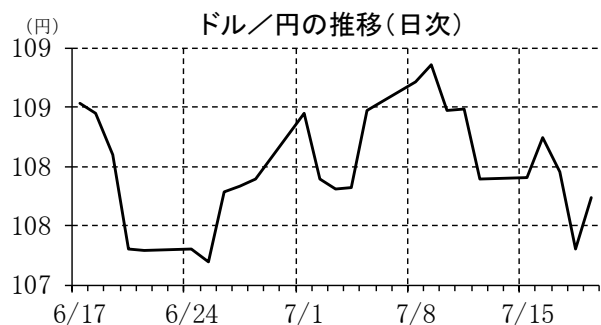
【債券利回り】



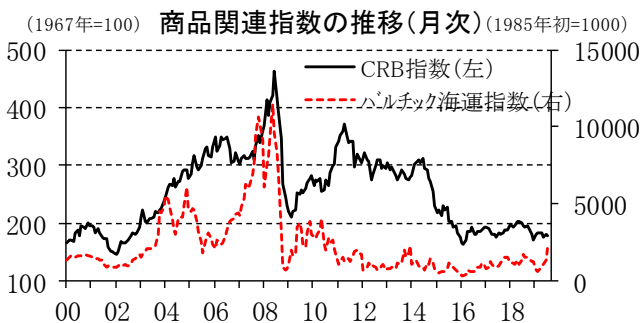
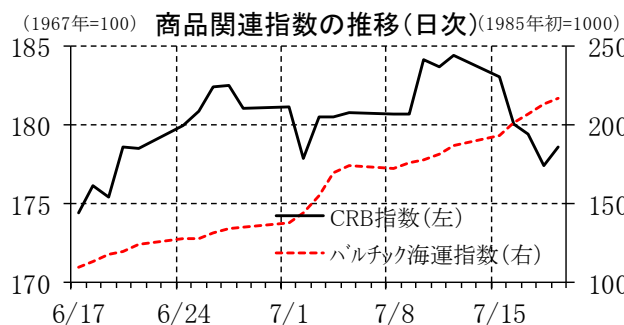
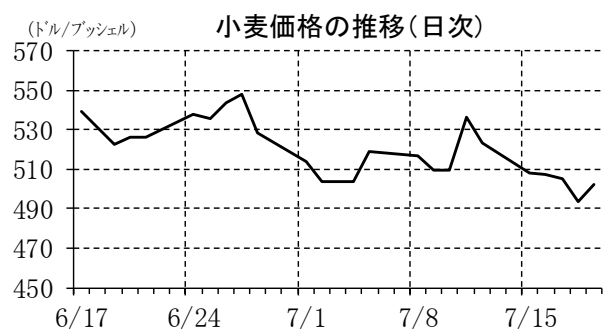
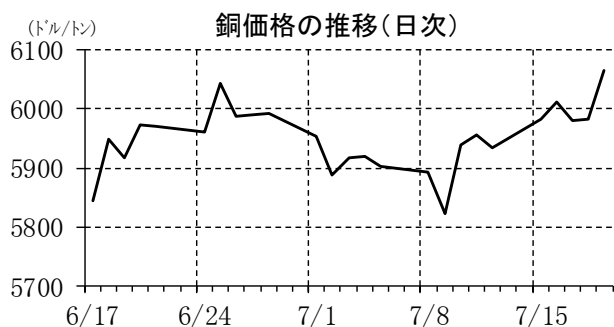
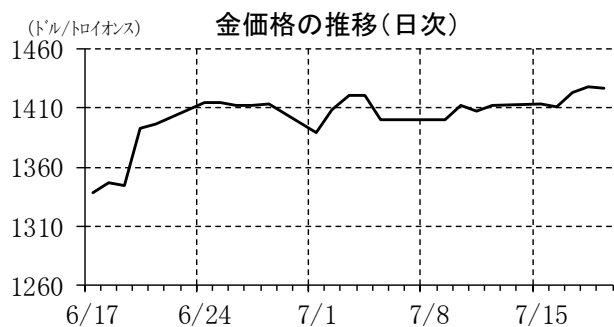
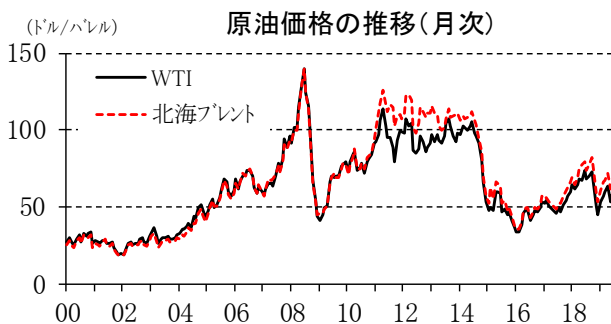
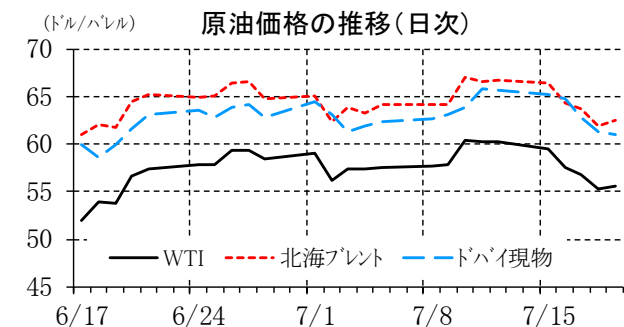
【株価指数】



【為替相場】



【商品市況】



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。